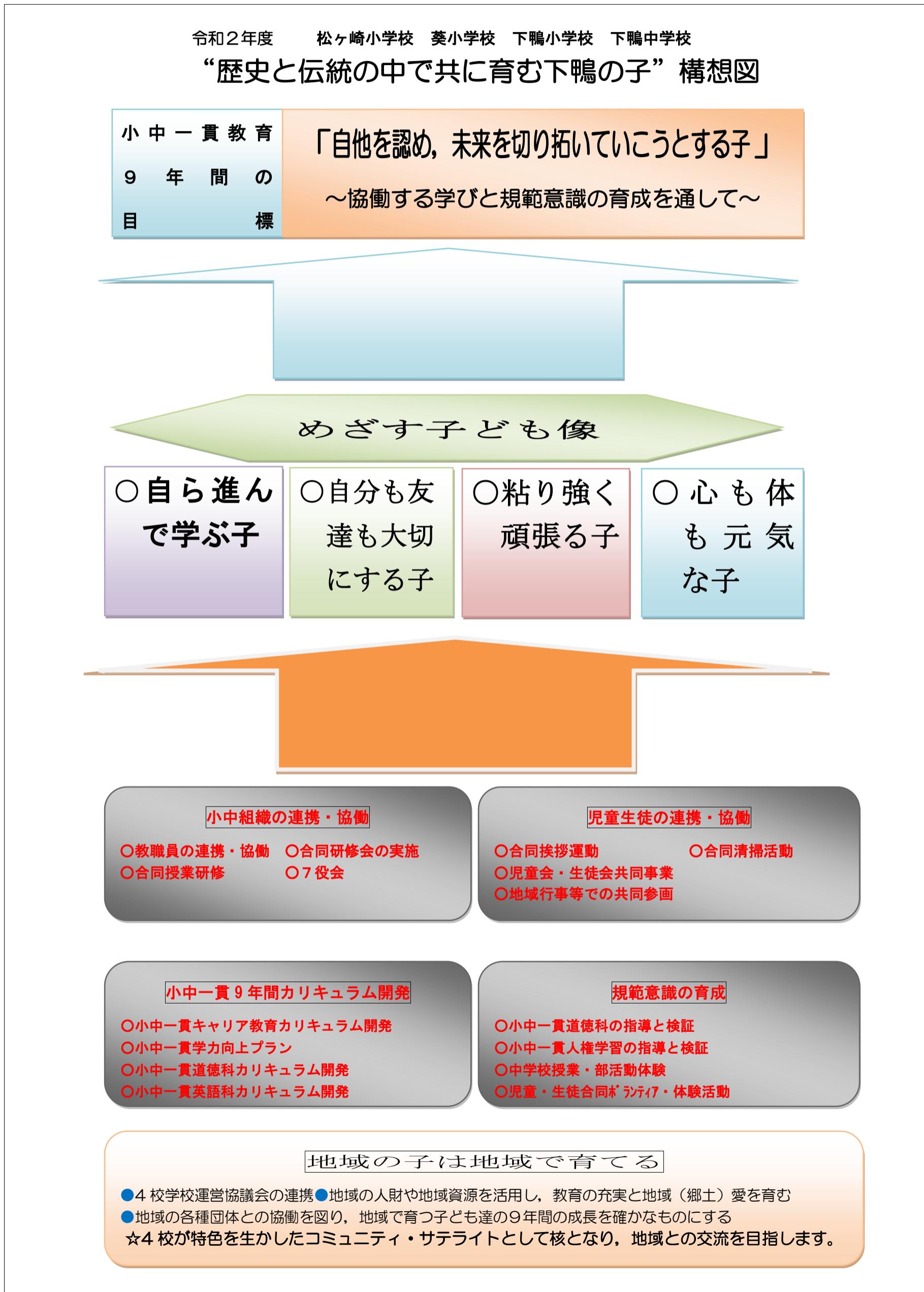


# 下鴨中学校ブロックの小中一貫教育

## 小中一貫教育構想図



## 軸となる取組・活動

## キャリア教育

### 義務教育卒業時につけたい力

- \*夢や目標に向かって努力し、他と協力して問題解決に当たる子
- \*自他共に大切にし、共生社会をめざす子
- \*あきらめないで最後までやり遂げる子
- \*高い志を持ち心身共に大切にして実践する子

学年または学年区分ごとにめざす姿		*地域での生活のなかで、自分が役に立つことやできることを考え、課題を解決する計画を立て、取り組むことができる。 *日常生活や学習と、将来の夢や自分の生き方との関係に気付き、今までできることやしなければならないことを考え努力しようとする。		*学習の課題を解決するための計画を立て、適切に調査や情報を収集し、主体的に課題の解決に取り組む。また、学習の成果を、表現を工夫して周りに伝える。 *学習や体験を通して、生き方や働くことについて考える。働くことの意義・苦労・楽しさなどに気付く。		*社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力とは何かを考え、社会の中で自分の役割を果たそうとする姿勢を自ら養う。また、そのことを通じて将来の目標を立て、その実現に向けて取り組む態度を身につける、主体的に自己の進路選択をし、決定できる。			
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）	
取組・活動 <下鴨小学校の取組> ○学校たんけん ○まちたんけん ○鴨川の生き物 ○お年寄りとの交流	○地域のことを 知ろう（下鴨探 検隊） ○お年寄りとの交 流	○環境学習 京都の伝統文化 共に生きる 1/2成人式 ○お年寄りとの交 流	○マイドリーム マイライフ ○スチューデン トシティ ○お年寄りとの交 流	○世界の友達と つながろう ○復興への願い つなごう平和の 心 ○お年寄りとの交 流	○世界の友達と つながろう ○復興への願い つなごう平和の 心 ○お年寄りとの交 流	<下鴨中学校の取組> ○キャリア学習 ○ファイナンス パーク学習 ○ドリカムスク ール ○ポスター発表 会	○高校・大学訪 問 ○生き方探究チ ヤレンジ体験 ○ポスター発表 会	○先輩の話を聞 こう ○進路説明会	
取組・活動 <松ヶ崎小学校の取組> ○仲良しだ作戦 (生活科) ○みんなの にこにこ大作戦 (生活科)	○ひろがれ わたし (生活科)	○松ヶ崎の すてき (かがやき学習) ○世界の国と つながろう (かがやき学習)	○守ろう！わた したちの環境 (かがやき学習) ○伝統に生きる (かがやき学習)	○仕事とわたし (かがやき学習) ○食とわたし (かがやき学習)	○わたしたちの 学校（かがやき 学習） ○平和な社会を 目指して (かがやき学習) ○京の伝統 (かがやき学習)				
取組・活動 <葵小学校の取組> ○学校たんけん (生活) ○みんなのにこ にこ大作せん (生活)	○まちたんけん (生活) ○いきものなか よし大作せん (生活)	○わたしたちの くらしとはたら く人々（社会科） ○みんなにやさ しい葵校（総合）	○人にやさしい 町づくり（総合） ○ものづくりの 殿堂学習 ○エコライフチ ヤレンジ学習 ○住みよいら しをささえる仕 事、安全なくら しを守る仕事に ついての学習 (社会科) ○社会科の「き ょう土をひら く」で琵琶湖疏 水づくりに尽力 した人物の生き 方について学 ぶ。	○スチューデン トシティ学習 (総合) ○環境にやさし い町づくり（総 合） ○日本の産業に ついての学習 (社会科)	○「平和につい て考えよう」（総 合） ○「自分史を作 ろう」（総合） ○歴史の学習で の人物の生き方 について学ぶ。 (社会科) ○日本の政治の 仕組みの学習 (社会科)				
<中学校ブロックとしての取組> 地域の町や自然を知り、地域に親しみ、地域の人々と交流することを通して、児童の学ぶ意欲を高める。また、地域の方やお年寄りとの関わりの中で、地域社会の一員として地域に愛着を感じ、地域の伝統や文化を大切にし、地域に誇りを持つとする態度を育てる。		地域の方やお年寄り、社会のために尽力した人などから学ぶことによって、地域の歴史や伝統文化を大切にし、自分のことや自分たちの町についてまとめたり、考えたり、発表できる力を養う。		体験活動等を通して、社会の仕組みを理解し、社会の中で生活している自己に気づき、互いに支え合い補い合う共存社会の中で生活が成り立っていることを理解させ、自らの社会的役割や生き方について考えさせる。 また、環境や平和について自分の考え方を持ち、より良く行動できるため		自己の現在や将来の生活設計を考えることにより、より良い生活について理解し、実践する態度を養う。また、仕事を体験することによって、自分の適性や将来の仕事について考えさせ、仕事を基盤とした自己的生活と人生について深く理解し、将来の生き方について考えさせる。		志を高く掲げて、自己の生き方について考え、先輩や仲間と共に自己の未来について考察を深め、キャリア発達の契機とする。	

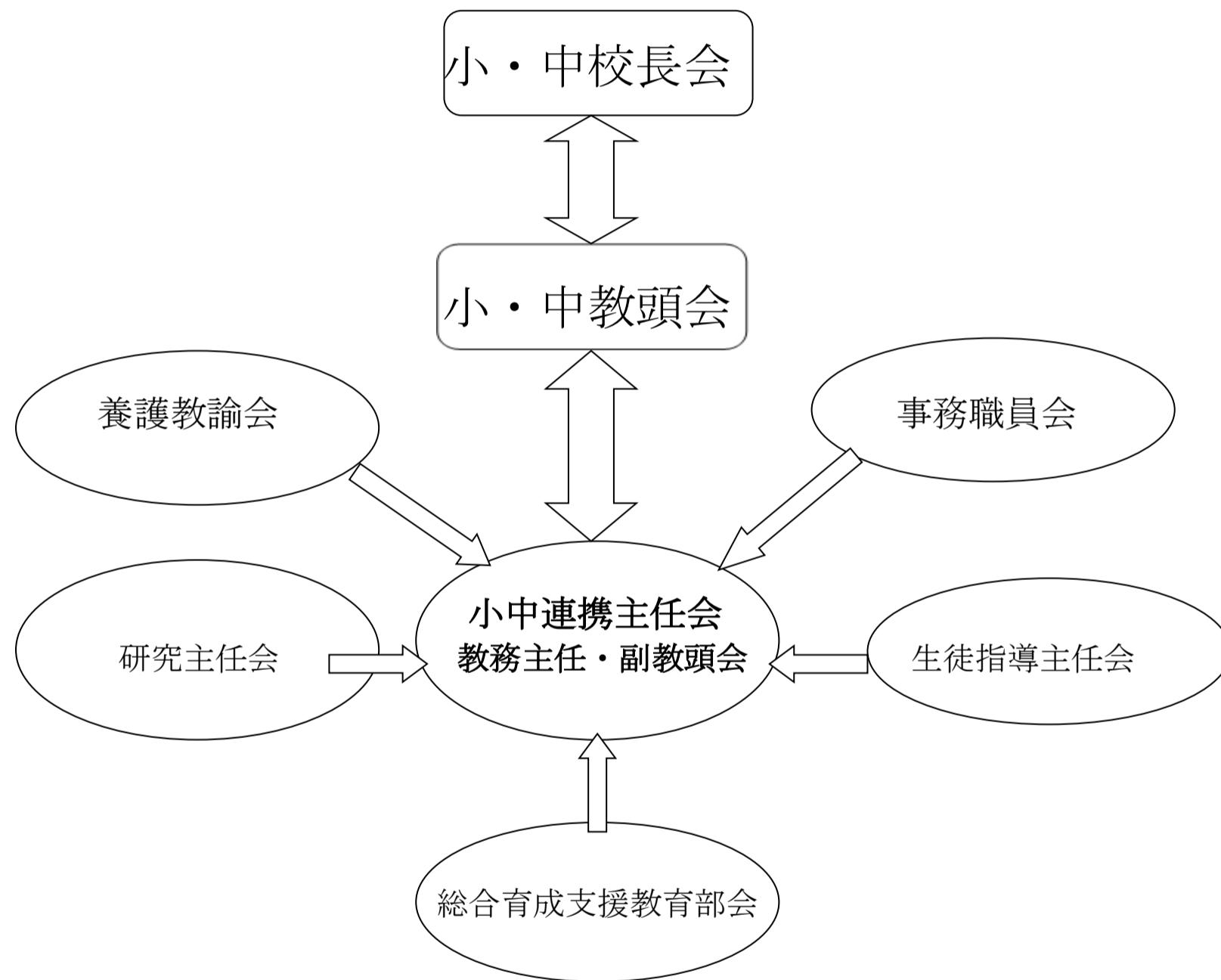
		の意識を高める。	
--	--	----------	--

#### 学びの約束・ルール

項目	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
話し方・聞き方・読み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなに聞こえる声で話す。</li> <li>○話している人の方を向いて聞く。</li> <li>○姿勢をよくして、聞こえる声で読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手や場に合った話し方をする。</li> <li>○自分の考えと比べて、なるほどと思って聞く。</li> <li>○姿勢をよくして、はっきり聞こえる声で読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や意図をはっきりさせてわかりやすく話す。</li> <li>○必要に応じてメモを取りながら聞く。</li> <li>○姿勢をよくして相手を意識して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の意見を受けて、自分の考えを的確に表現する。</li> <li>○話をする人を見て、正しい姿勢で、必要に応じてメモを取り、自分の考えと比較しながら聞く。</li> <li>姿勢を正しくして相手を意識し、その場に応じた読み方をする。</li> </ul>					
ノート指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マス目からはみ出さないように正しく丁寧な字で書く。</li> <li>○適切に行を変えるなど、読みやすく書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マス目や行をあけたり、大事なところに線を引くなどの工夫をして見やすく書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容や大事な事柄が見やすいノートにする。</li> <li>○自分の考え方や、先生・友だちの発言、学習のポイントなどを付け加えてメモし、わかりやすいノートにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を整理し、見直しに活用できるノートを作る。</li> <li>○板書されたものだけをノートに書き写すだけでなく、自分の理解を深めるための自己の意見や考えたことを記したり、他の意見等を記したりするなど、学習ツールとして活用できるよう工夫してノートを取る。</li> </ul>					
適切なあいさつ・言葉づかい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習や生活の場面に合ったあいさつや返事の仕方がわかり、よく聞こえる声であいさつや返事をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習や生活の場面に合ったあいさつや返事の仕方がわかり、よく聞こえる声であいさつや返事をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手を意識したあいさつや言葉遣いをする。</li> <li>○丁寧に相手の方を向いてする。</li> <li>○丁寧語・尊敬語・謙譲語がわかり、使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○TPOに応じた挨拶や言葉遣いをする。</li> <li>○丁寧語・尊敬語・謙譲語を適切に使い、相手に伝わるような言葉遣いをする。</li> </ul>					

## 小中一貫教育推進体制

下鴨中学校ブロック 小中一貫教育推進組織図



家庭・地域との連携・協力に向けた取組

- 学校の日常での児童・生徒の様子や学校行事のお知らせなどを学校便りやH Pによって掲載し、家庭や地域に向けた情報発信を行っている。
- 学校評価は、保護者・生徒・教職員等の学校関係者評価で行い、これら三者のアンケート項目の統一を図り、三者の評価の比較検討を行うと同時に、今後は、三小学校と中学校の学校評価項目の統一を図り、三者の9年間の意識や評価の経年変化をとらえ、家庭・地域との連携・協力を図る中で、地域の中で地域と共に、子ども達を育んでいきたい。